

現代ドイツ語の副詞 *gern* について — 共起可能な統語的環境と体系的語彙記述の試み —

瀬川真由美

キーワード：現代ドイツ語、副詞 *gern*、統語的環境

要旨

現代ドイツ語の副詞 *gern* は、反復を前提としない「出来事」の意味を表す文に共起することで「主語の好み」という文の意味を形成する機能を担っている。また何らかの「出来事」に積極的に参加する意思を主語が有するという意味を表す機能も担っているが、反復を前提としない「出来事」を表す文に *gern* と時間の参照点を表す副詞（句）を加えた文は、容認度に差が出る。その判断の違いを生じさせる要因は、時間の参照点を表す副詞（句）が開始と終了が明確な時間の比較的短い幅を意味するか否かである可能性が高い。さらに主語が2人称であり、話法の助動詞が共起する統語的環境においては、副詞 *gern* が「主語がしたいのであれば。」という条件を表す従来の記述にはない意味的機能を担っていることが観察された。語用論的観点からは、一定の質問や誘いに対して、やんわりと断る際にも副詞 *gern* が用いられることが分かった。

1. はじめに

本稿ではドイツ語におけるモダリティ表現の体系性を解明する一環として、副詞 *gern* の機能的語彙の意味の体系的記述を試みる。

現代ドイツ語の副詞には形態論、統語論、意味論の観点から「不変化詞」、「話法詞」、「焦点化詞」などと様々な名称で区分される副詞がある（瀬川 2015）。その中で副詞 *gern* は主語の積極的な意思（*bereitwillig und freudig*）と好み（*mit Vorliebe*）を表す機能を担っていると記述される（DUDEN 2017）。その用法の分布を調査するためにドイツ語コーパスを用いて概観した。ライプチヒ大学が提供するドイツ語コーパスを2018年4月21日に参照し同日現在、収蔵文例は26,142,898文、タイプは5,876,655、トークンは425,703,278である。2011年に新聞に掲載された記事から収集されている（http://corpora.uni.leipzig.de/de?corpusId=deu_newscrawl_2011）。

文中に *gern* を含み、文頭にはない場合の例文は32,375あり、共起する頻度の高い語として *würde*, *ich*, *hätte* などが挙げられている。また文頭には頻回に *Ich* が現れていることが示されている。また *gern* と頻回に共起する文要素として図示されている8語の内、定形は3語

しかなく、そのすべてが形態的に接続法Ⅱ式であり、3語の内2語の品詞は話法の助動詞である。話法の助動詞と接続法Ⅱ式の関係と副詞jaの共起性と文の表す意味については日本語の終助詞などとの比較対照を念頭にすでに考察した(瀬川 2013)。

文頭にgemが置かれる例文は1,184あるが頻回に共起する語としてwürde, ich, hätteが挙げられ、その他の共起性の高い語として固有名詞(人名、団体名)が列挙されており特殊性が認められ、また文例の数として文中に現れるgemに比較して30分の1に過ぎない。

このコーパスに収蔵されている文中にgemを含み、文頭にはない場合の例文32,375からその約1%に対応する324の例文について統語的環境(主語の人称)と文の意味(主語の意思を表しているのか、あるいは好みを表しているのか。)を考察し、以下の結果が得られた。なお、文の表す意味に関してはDUEN(2017)のgemの項目の意味的記述に基づき筆者が判断した。比率については小数点第2位を四捨五入した。比率の算出については以下、同様である。

共起する主語の人称による分類は以下の結果が得られた。

例文324の内、1人称の主語を持つ文は66、2人称の主語を持つ文は18、3人称の主語を持つ文が240であった。全324文に対するそれぞれの人称の主語の分布をパーセンテージで表示した。

主語の人称	例文数	比率
1人称	66	20.4%
2人称	18	5.6%
3人称	240	74.1%

明らかに共起する主語は3人称が突出して多い。使用したドイツ語コーパスデータが新聞記事であることが要因として数値に影響しているとも考えられる。

共起する主語の人称のそれぞれの文が表す意味をそれぞれの主語の人称について以下の結果が得られた。

1人称の主語が共起している66の文については、意思を表す文が42、好みを表す文が24と分布していた。以下の結果が得られた。

文の表す意味	例文数	比率
好み	24	36.4%
意思	42	63.6%

1人称が主語である文においては、明らかに「好み」よりも「意思」の意味を表す傾向が強い。

2人称の主語が共起している18の文については、意思の意味を表す文が5、好みの意味

を表す文が 1、「その他」の意味を表す文が 12 と分布していた。以下の結果が得られた。

文の表す意味	例文数	比率
好み	1	5.6%
意思	5	27.8%
その他（許可？）	12	66.7%

2 人称と共起している文例が 18 と少ないが、「好み」とも「意思」とも明らかに異なる「その他」の意味を表す文が突出して多いことは注目に値する。「その他」の意味として「許可」なのではないかと判断したが、「許可」という新しい意味の記述は筆者が例文から解釈した結果である。

3 人称の主語が共起している 240 の文については、意思の意味を表す文が 60、好みの意味を表す文が 165 と分布していた。以下の結果が得られた。

文の表す意味	例文数	比率
好み	165	68.8%
意思	60	25.0%
その他	15	6.3%

3 人称が主語である文においては、明らかに「意思」よりも「好み」の意味を表す傾向が強い。その他の文の意味については一定した文の意味を特定することが困難であった。

以上の結果をまとめ、主語の人称と文の表す意味を分類すると以下の結果が得られた。

主語の人称	文の表す意味	例文数	比率
1 人称	好み	24	7.4%
1 人称	意思	42	13.0%
2 人称	好み	1	0.3%
2 人称	意思	5	1.5%
2 人称	許可（？）	12	3.7%
3 人称	好み	165	50.9%
3 人称	意思	60	18.5%
3 人称	その他	15	4.6%

今回のドイツ語コーパスから得られた情報として特に、2 人称の主語と共起したときのみ「許可」という文の意味が出現していることが挙げられる。全 324 文の内では 12 と少ないが、2 人称の主語を持つ文 18 の内で 12 は数値として 66.7%を占め、比率としては突出して多い。

本稿では、2 人称の主語を持つ *gern* を文中に含む文において、文が「許可」の意味を表す

ことに注目するとともに、共起する統語的環境と当該の文が表す意味を考察し、*gern* の機能的語彙の意味の体系的記述を試みる。

2. 副詞 *gern* の機能と意味

現代ドイツ語の *gern* は統語的・形態的に副詞に分類され、意味的・機能的には動詞によって表される出来事の状態を示す役割を担っている (Hentschel 2010:13)。具体的には文の主語の状態を示す (Eroms 2000:245)、あるいは述語の状態を示す (Welke 2011:113-114) が、文全体の状態を示すことはできない (Hofmann 2013:320-321)。

本稿では副詞 *gern* が出現可能な統語的環境を示し、当該の文がどのような意味を表しているのかを記述することにより、*gern* の統語的・意味的機能を解明し体系的に記述することを目的としている。ドイツ語コーパスでは接続法 II 式と 3 人称の主語との共起性が示され使用頻度が高いことが分かった。接続法 II 式は非現実の表現であるが、当該コーパスが新聞記事から形成されるために、3 人称の主語の出現頻度が高いことも考えられる。以下では直説法を用いて共起する主語の人称の容認度と文の意味を検証するために作例してインフォーマントテストを行った。

以下の例文はすべて作例であり、主語が話し手、聞き手、それ以外の人物であることが明確になるように、主語を 1 人称、2 人称、3 人称、それぞれの単数形に限定する。文の意味と文要素が担う機能を明確にするために、作例は動詞の統語的に最小限の項のみで形成した (Wellmann 2008:125-128)。それぞれ時制は現在形、過去形、現在完了形の 3 種類とする。また現在形の話法の助動詞と単純不定詞を共起させた。文のタイプは平叙文と決定疑問文の 2 種類とした。当該の文の表す意味と当該の文に出現している *gern* が担う機能に考察を加える。

2.1 現在形の動詞と過去の参照点の意味を表す副詞句との共起性と文の意味

時間の参照点として継続性を含意する *seit zehn Jahren* 「10 年前から」を共起させた。

(1) Ich spiele Tennis. (Ereignis)

私はテニスをする。 (「反復を前提としない出来事」)

(2) Ich spiele gern Tennis. (mit Vorliebe)

私はテニスが好きだ。 (「主語の好み」)

(3) ?Seit zehn Jahren spiele ich gern Tennis. (mit Vorliebe)

10 年来、私はテニスが好きだ。 (「主語の好み」)

(4) Du spielst Tennis. (Ereignis)

君はテニスをする。 (「反復を前提としない出来事」)

(5) Du spielst gern Tennis. (mit Vorliebe)

君はテニスが好きだ。(「主語の好み」)

(6) ?Seit zehn Jahren spielst du gern Tennis. (mit Vorliebe)

10 年来、君はテニスが好きだ。(「主語の好み」)

(7) Maria spielt Tennis. (Ereignis)

マリーアはテニスをする。(「反復を前提としない出来事」)

(8) Maria spielt gern Tennis. (mit Vorliebe)

マリーアはテニスが好きだ。(「主語の好み」)

(9) Seit zehn Jahren spielt Maria gern Tennis. (mit Vorliebe)

10 年来、マリーアはテニスが好きだ。(「主語の好み」)

例文末尾のカッコ内に当該の文の意味を示した。それぞれの意味は次の通りである。

Ereignis : 「反復を前提としない出来事」

mit Vorliebe : 「主語の好み」

bereitwillig und freudig : 「意思／願望」

Erlaubnis : 「許可」

Pflicht : 「義務」

例文文頭の記号が表す意味は次の通りである。

? : 前後に文脈を補うことで容認され得る。

?? : 前後に特別な文脈を補うことで容認され得る。

* : 不適格文と判断される。

例文はすべて作例を用いた。インフォーマントは麗澤大学外国語学部嘱託専任講師ドイツ語母語話者 2 名である。作例をすべて文字化し提示した。1 名ずつ個別に面談し、インフォーマントは作例を読みながら、シートに判断を書き入れると同時に口頭および書面で作例に関する詳細な説明と見解を付け加えた。不適格な文はインフォーマント 2 名の判断がすべての作例において一致した。また、文脈を補う提案についても 2 名の意見は一致し、補う文脈の例示も内容は一致した。

以下の例文はすべて同様の記号を付した。

例文(3)と例文(6)はともに「10 年以上前はテニス以外の何かが好きだった。」というように、当該の文と対比する語句を含む文脈が補われることで自然な文に感じられるようになる。一方、例文(9)はそのような文脈は必要なく、当該の文だけで容認され得る。

これらの例文の容認度の差は主語の人称が問題になっていることが分かり、3人称の場合に限り、自然な文と判断された。

2.2 過去形の動詞と過去の参照点の意味を表す副詞句との共起性と文の意味

過去の時間の参照点として *vor zehn Jahren* 「10 年前」と 24 時間の限定的意味を表す *am letzten Sonntag* 「先週の日曜日」と共起させた。

(10) Ich spielte Tennis. (Ereignis)

私はテニスをした。 (「反復を前提としない出来事」)

(11) Ich spielte gern Tennis. (mit Vorliebe)

私はテニスが好きだった。 (「主語の好み」)

(12) Vor zehn Jahren spielte ich gern Tennis. (mit Vorliebe)

10 年前、私はテニスが好きだった。 (「主語の好み」)

(13)*Am letzten Sonntag spielte ich gern Tennis.

先週の日曜日、私はテニスが好きだった。

(14) Du spieltest Tennis. (Ereignis)

君はテニスをした。 (「反復を前提としない出来事」)

(15) Du spieltest gern Tennis. (mit Vorliebe)

君はテニスが好きだった。 (「主語の好み」)

(16) Vor zehn Jahren spieltest du gern Tennis. (mit Vorliebe)

10 年前、君はテニスが好きだった。 (「主語の好み」)

(17)*Am letzten Sonntag spieltest du gern Tennis.

先週の日曜日、君はテニスが好きだった。

(18) Maria spielte Tennis. (Ereignis)

マリーアはテニスをした。 (「反復を前提としない出来事」)

(19) Maria spielte gern Tennis. (mit Vorliebe)

マリーアはテニスが好きだった。 (「主語の好み」)

(20) Vor zehn Jahren spielte Maria gern Tennis. (mit Vorliebe)

10 年前、マリーアはテニスが好きだった。 (「主語の好み」)

(21)*Am letzten Sonntag spielte Maria gern Tennis.

先週の日曜日、マリーアはテニスが好きだった。

例文(12)、(16)、(20)は「10 年前」という意味を表す時間の参照点が表示されており容認され

るが、例文(13)、(17)、(21)は「先週の日曜日」という意味を表す時間の参照点が示されると不適格と認識される。主語の人称の違いには関わりなく、時間の意味を表す副詞（句）が例文の容認度に影響を与えていると考えられる。なお、過去形は会話では用いられることが少ないため、過去形を用いている文そのものに若干の違和感を感じる旨がインフォーマントからコメントされた。

2.3 現在完了形の動詞との共起性と文の意味

過去の時間の参照点として *vor zehn Jahren* 「10 年前」と 24 時間の限定的意味を表す *am letzten Sonntag* 「先週の日曜日」と共起させた。

(22) *Ich habe Tennis gespielt. (Ereignis)*

私はテニスをした。（「反復を前提としない出来事」）

(23) *Ich habe gern Tennis gespielt. (mit Vorliebe)*

私はテニスが好きだった。（「主語の好み」）

(24) *Vor zehn Jahren habe ich gern Tennis gespielt. (mit Vorliebe)*

10 年前、私はテニスが好きだった。（「主語の好み」）

(25)**Am letzten Sonntag habe ich gern Tennis gespielt.*

先週の日曜日、私はテニスが好きだった。

(26) *Du hast Tennis gespielt. (Ereignis)*

君はテニスをした。（「反復を前提としない出来事」）

(27) *Du hast gern Tennis gespielt. (mit Vorliebe)*

君はテニスが好きだった。（「主語の好み」）

(28) *Vor zehn Jahren hast du gern Tennis gespielt. (mit Vorliebe)*

10 年前、君はテニスが好きだった。（「主語の好み」）

(29)**Am letzten Sonntag hast du gern Tennis gespielt.*

先週の日曜日、君はテニスが好きだった。

(30) *Maria hat Tennis gespielt. (Ereignis)*

マリーアはテニスをした。（「反復を前提としない出来事」）

(31) *Maria hat gern Tennis gespielt. (mit Vorliebe)*

マリーアはテニスが好きだった。（「主語の好み」）

(32) *Vor zehn Jahren hat Maria gern Tennis gespielt. (mit Vorliebe)*

10 年前、マリーアはテニスが好きだった。（「主語の好み」）

(33)**Am letzten Sonntag hat Maria gern Tennis gespielt.*

先週の日曜日、マリーアはテニスが好きだった。

例文(10)～(21)の文は書き言葉で使われる過去形を用い、例文(22)～(33)では会話で頻繁に使用される現在完了形を用いた。容認される文は過去形と現在完了形では種類に変化はなく、例文(24)、(28)、(32)は「10年前」という時間の参照点と共起可能であり容認されるが、例文(25)、(29)、(33)は「先週の日曜日」という限定的時間の参照点が示され不適格と認識される。主語の人称の違いには関わりなく、時間の意味を表す副詞(句)が例文の容認度に影響を与えていると考えられる。

2.4 決定疑問文と文の意味

現在形

(34)??Spiele ich Tennis? (Ereignis)

私はテニスをするの? (「反復を前提としない出来事」)

(35)??Spiele ich gern Tennis?(mit Vorliebe)

私はテニスが好きな? (「主語の好み」)

(36) Spielst du Tennis? (Ereignis)

君はテニスをするの? (「反復を前提としない出来事」)

(37) Spielst du gern Tennis? (mit Vorliebe)

君はテニスが好きな? (「主語の好み」)

(38) Spielt Maria Tennis? (Ereignis)

マリーアはテニスをするの? (「反復を前提としない出来事」)

(39) Spielt Maria gern Tennis? (mit Vorliebe)

マリーアはテニスが好きな? (「主語の好み」)

過去形

(40)??Spielte ich Tennis? (Ereignis)

私はテニスをしたの? (「反復を前提としない出来事」)

(41)??Spielte ich gern Tennis? (mit Vorliebe)

私はテニスが好きだったの? (「主語の好み」)

(42) Spieltest du Tennis? (Ereignis)

君はテニスをしたの? (「反復を前提としない出来事」)

(43) Spieltest du gern Tennis? (mit Vorliebe)

君はテニスが好きだったの？（「主語の好み」）

(44) Spielte Maria Tennis? (Ereignis)

マリーアはテニスをしたの？（「反復を前提としない出来事」）

(45) Spielte Maria gern Tennis? (mit Vorliebe)

マリーアはテニスが好きだったの？（「主語の好み」）

現在完了形

(46)??Habe ich Tennis gespielt? (Ereignis)

私はテニスをしたの？（「反復を前提としない出来事」）

(47)??Habe ich gern Tennis gespielt? (mit Vorliebe)

私はテニスが好きだったの？（「主語の好み」）

(48) Hast du Tennis gespielt? (Ereignis)

君はテニスをしたの？（「反復を前提としない出来事」）

(49) Hast du gern Tennis gespielt? (mit Vorliebe)

君はテニスが好きだったの？（「主語の好み」）

(50) Hat Maria Tennis gespielt? (Ereignis)

マリーアはテニスをしたの？（「反復を前提としない出来事」）

(51) Hat Maria gern Tennis gespielt? (mit Vorliebe)

マリーアはテニスが好きだったの？（「主語の好み」）

例文(34)と(35)、例文(40)と(41)、例文(46)と(47)は、主語が1人称であるために時制の違いとは関係なく容認されにくい。容認度を上げるために特別な文脈を補うが必要になる。何らかの対比の対象を提示する文脈や、疾患による記憶の喪失、あるいは、幼少時のことを失念しているために周囲に尋ねているなどの文脈が補足されると不自然さが軽減される。

疑問文においては時制の違いと関わりなく、主語の人称が例文の容認度に影響を与えていると考えられる。

2.5 副詞 **gern** を文頭に置いた文

(52)?Gern spiele ich Tennis.

喜んで、私はテニスをするよ。

(53)*Gern spielst du Tennis.

喜んで、君はテニスをするよ。

(54)?Gern spielt Maria Tennis.

喜んで、マリーアはテニスをするよ。

例文(52)には「ねえ、テニスしようよ!」と誘われた際の返答であることが明示される文脈が補われると自然な文と感じられるようになる。副詞 *gern* は「反復を前提としない出来事」に含まれていると考えられる。例文(53)は不適格文と判断される。例文(54)はマリーアの代理となる発話者が、マリーアに対する誘いに対して返答していることが明示される文脈が補われると自然な文と感じられるようになる。

副詞 *gern* を文頭に置く例文については、「反復を前提としない出来事」を文の意味が担っているが、特殊性の高い文脈を補うことなく容認される可能性はとても低い。

2.6 未来の意味を表す「時間」を表す副詞（句）との共起性

時間の参照点として「24時間の限定的未来」の意味を表す *morgen* と「1年後までに」という意味を表す *in einem Jahr* を共起させた。

(55)?Morgen spiele ich gern Tennis. (bereitwillig und freudig)

明日なら、私はテニスをする（「意思／願望」）。

(56)?Morgen spielst du gern Tennis. (bereitwillig und freudig)

明日なら、君はテニスをする。（「意思／願望」）

(57)?Morgen spielt Maria gern Tennis. (bereitwillig und freudig)

明日なら、マリーアはテニスをする。（「意思／願望」）

(58)*In einem Jahr spiele ich gern Tennis.

1年後、私はテニスが好きになる。

(59)*In einem Jahr spielst du gern Tennis.

1年後、君はテニスが好きになる。

(60)*In einem Jahr spielt Maria gern Tennis.

1年後、マリーアはテニスが好きになる。

例文(55)、(56)、(57)は、「今日、テニスをしようよ!」という誘いに対して断りの意味を込めて「明日なら、テニスをしてもいいけれど。」という返答であることを明示する文脈が補われると不自然さが軽減する。この場合、副詞 *gern* は「反復を前提としない出来事」に含まれていると考えられる。例文(58)、(59)、(60)は「1年後にテニスが好きになっている。」という「将来の主語の好み」を文の意味として解釈され、不適格な文と判断される。「主語の好み」という意味を担って副詞 *gern* が機能していると考えられる。

2.7 話法の助動詞との共起性と文の意味

話法の助動詞 können, müsse, dürfen, wollen を共起させた。

(61)*Ich kann gern Tennis spielen.

私がテニスをしたいなら、やってもいい。

(62) Du kannst gern Tennis spielen. (Erlaubnis)

君がテニスをしたいなら、やっていいよ。(「許可」)

(63) Maria kann gern Tennis spielen. (Erlaubnis)

マリーアがテニスをしたいなら、やっていいよ。(「許可」)

(64)*Kann ich gern Tennis spielen?

私がテニスをしたいなら、やっていい?

(65)*Kannst du gern Tennis spielen?

君がテニスをしたいなら、やっていい?

(66)*Kann Maria gern Tennis spielen?

マリーアがテニスをしたいなら、やっていい?

(67)*Ich muss gern Tennis spielen.

私は好きでテニスをしなければならない。

(68)??Du mußt gern Tennis spielen. (Pflicht)

君は好きでテニスをしなければならない。(「義務」)

(69)*Maria muss gern Tennis spielen.

マリーアが好きでテニスをしなければならない。

(70)*Muss ich gern Tennis spielen?

私は好きでテニスをしなければならないのか?

(71)*Mußt du gern Tennis spielen?

君は好きでテニスをしなければならないのか?

(72)*Muss Maria gern Tennis spielen?

マリーアは好きでテニスをしなければならないのか?

(73)*Ich darf gern Tennis spielen.

私がテニスをしたいなら、やってもいい。

(74) Du darfst gern Tennis spielen. (Erlaubnis)

君がテニスをしたいなら、やってもいい。(「許可」)

(75) Maria darf gern Tennis spielen. (Erlaubnis)

マリーアがテニスをしたいなら、やってもいい。(「許可」)

(76)*Darf ich gern Tennis spielen?

私がテニスをしたいなら、やってもいい?

(77)*Darfst du gern Tennis spielen?

君がテニスをしたいなら、やってもいい?

(78)*Darf Maria gern Tennis spielen?

マリーアがテニスをしたいなら、やってもいい?

(79) Ich will gern Tennis spielen. (bereitwillig und freudig)

私はテニスがしたい。(「意思／願望」)

(80) Du willst gern Tennis spielen. (bereitwillig und freudig)

君はテニスがしたい。(「意思／願望」)

(81) Maria will gern Tennis spielen. (bereitwillig und freudig)

マリーアはテニスがしたい。(「意思／願望」)

(82)*Will ich gern Tennis spielen?

私はテニスがしたい?

(83) Willst du gern Tennis spielen? (bereitwillig und freudig)

君はテニスがしたい? (「意思／願望」)

(84) Will Maria gern Tennis spielen? (bereitwillig und freudig)

マリーアはテニスがしたい? (「意思／願望」)

例文(62)と(63)は、話法の助動詞 *können* と共起し、文はやはり「許可」の意味を表す。その際、副詞 *gern* は条件を示し、例文(62)では条件節 *wenn du willst* と等価で書き換えが可能であり、例文(63)では条件節 *wenn sie will* と等価で書き換えが可能である。例文(64)、(65)、(66)はそれぞれ例文(61)、(62)、(63)に対応する疑問文であるが、すべてが不適格な文と判断される。

例文(68)は「テニスが好きなら(練習)しなさい。」と義務的あるいは強制のような文の意味になる。副詞 *gern* は条件を示し、条件節 *wenn du willst* と等価で書き換えが可能である。

例文(70)、(71)、(72)はそれぞれ例文(67)、(68)、(69)に対応する疑問文であるが、すべてが不適格な文と判断される。

例文(74)と(75)は、話法の助動詞 *dürfen* と共起し、文は「許可」の意味を表す。副詞 *gern* は、条件を示し、例文(74)では条件節 *wenn du willst* と等価で書き換えが可能であり、例文

(75)では条件節 *wenn sie will* と等価で書き換えが可能である。

例文(76)、(77)、(78)はそれぞれ例文(73)、(74)、(75)に対応する疑問文であるが、すべてが不適格な文と判断される。

例文(79)、(80)、(81)は副詞 *gern* を除いても文の意味に変化は生じない。したがってこの統語的環境では副詞 *gern* は文の意味に影響を与えていないと考えられる。

例文(82)、(83)、(84)はそれぞれ例文(79)、(80)、(81)に対応する疑問文であるが、例文(82)が不適格な文と判断される。

2.8 インフォーマントテストによる主語に関する容認度と文の表す意味のまとめ

このテストにより *gern* を含みそれぞれの人称の主語を持つ直説法の文で 22 種類を検証した。その結果、適格文、文脈を必要とする文 (?), 特殊な文脈を必要とする文 (??)、不適格な文、の 4 種類に分類できた。表で示す。

主語の人称	適格文	?	??	不適格な文
1 人称	6	3	3	10
2 人称	12	2	1	7
3 人称	13	2	0	7

パーセンテージで示すと以下ようになる。

主語の人称	適格文	?	??	不適格な文
1 人称	27.3%	13.6%	13.6%	45.5%
2 人称	54.5%	9.1%	4.5%	31.8%
3 人称	59.1%	9.1%	0%	31.8%

適格文の結果をまとめ、主語の人称と文の表す意味を分類し以下の結果が得られた。

主語の人称	文の表す意味	例文数	比率
1 人称	好み	5	16.1%
1 人称	意思	1	3.2%
2 人称	好み	8	25.8%
2 人称	意思	2	6.5%
2 人称	許可	2	6.5%
3 人称	好み	9	29.0%
3 人称	意思	2	6.5%
3 人称	許可	2	6.5%

全体数が少ないため比率は参考に算出した。

3. まとめと今後の課題

現代ドイツ語の副詞 *gern* は、反復を前提としない出来事の意味を表す文に共起することで「主語の好み」という文の意味を形成する機能を担っていることが分かった。また何らかの出来事に積極的に参加する意思を主語が有するという意味を表す場合には特定の文要素を必要としていることが解明された。その他に、話法の助動詞が共起する統語的環境によって副詞 *gern* が「主語がしたいのであれば。」という条件を表す意味的機能を担っていることが明らかとなった。

現在に至るまで、副詞 *gern* は文全体を修飾することはできないと考えられている。では条件節の機能を担う副詞 *gern* にはどのような記述が妥当であるのか。この文の意味の構造の解明も考察の対象になる。

語用論的観点からは、副詞 *gern* は一定の質問や誘いに対して、他の文要素を提示して断りの表現に用いられる。この語用論的機能も注目に値する。

今後は、ドイツ語におけるモダリティの表現の体系を解明するための一環として副詞 *gern* の統語的・意味的機能を体系的に記述することを目指す。共起する統語的環境とその文の意味とその際に *gern* が果たしている機能をさらに考察する。また語用論的観点から「断り」の表現にも用いられることに注目し、その機能を解明することも課題とする。

参考文献

- Duden (2017). *Das Stilwörterbuch*, 10. Auflage. Mannheim. Dudenverlag.
 Elke, Hentschel (2010). *Deutsche Grammatik*. Berlin/New York. Walter de Gruyter.
 Eroms, Hans-Werner (2000). *Syntax der deutschen Sprache*. Berlin/New York. Walter de Gruyter.
 Hoffman, Ludger (2013). *Deutsche Grammatik*. Berlin. Erich Schmidt Verlag.
 Welke, Klaus (2011). *Valenzgrammatik des Deutschen*. Berlin/New York. Walter de Gruyter.
 Wellmann, Hans (2008). *Deutsche Grammatik. Laut. Wort. Satz. Text*. Heidelberg. Universitätsverlag WINTER.

瀬川真由美 (2013) 「接続法と「話法の助動詞」一語用論的観点からの分析のために」

『麗澤大学紀要』第97巻、pp.241-260、麗澤大学

瀬川真由美 (2015) 「「不愉快な発話」に関する考察のために」『麗澤大学紀要』第98巻、pp.89-96、麗澤大学

http://corpora.uni.leipzig.de/de?corpld=deu_newscrawl_2011